

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日: 6年 3月 20日

事業所名: はあーとふる

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	室内運動、デスクスペース共に十分に確保し活動している。	広い部屋だと思います。	引き続き清掃を入念におこなっていく。
	2 職員の適切な配置	人員配置基準は満たしている。	適切であると回答(100%)	6年度以降、職員を増やして、利用者への手厚いサポートを行っていくと同時に、職員の負担も減らしていく。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	フロア全体をバリアフリー化、五感全てでの情報伝達が可能な空間及び内線電話を各所に配置。	フロアに段差がなく、安全だと思いました。工夫がされています。	施設内に死角となるスペースを無くすよう、引き続き努力していく。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	日々、清潔に努めている。特に除菌は徹底して行っている。トイレの随時確認、空気清浄機は敷地内に9台設置し稼働している。	清潔感のある、綺麗な部屋だと思います。	清潔さは保護者からも高く評価していただいているため、今後も徹底した除菌等に努めていく。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	日々、改善を行っている。反省点や問題点は翌日の朝にフィードバックし改善策を検討、実施している。		職員同士の改善意識の向上が図られており、今後もミーティングを重要視していく。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	他事業所や多職種の方へも意見を求め、情報収集に努めている。		専門家の講習を交え、改善を図っていく。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	感染予防についての研修や療育についての学びの場を設けている。		有償、無償にかかわらず、研修機会を増やしていく。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	面談を行い、ニーズの聞き取りや事業所での様子などを保護者と共有し作成している。家庭環境の把握にも努めている。	はい、と回答(100%)	ヒアリングとミーティングを重要視し、常に見直しを心掛ける。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	毎日のミーティングであげられた課題をスタッフ間で共有し、課題に応じたサービス計画の作成を行っている。	はい、と回答(100%)。家庭ではできない体験などを行ってけている。	ヒアリングとミーティングを重要視し、常に見直しを心掛ける。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	各児童に応じた、課題を可能な限り数値化し、目標達成がわかりやすいように努めている。	はい、と回答(100%)。こちらの要望を丁寧に聞いてもらっている。	ヒアリングとミーティングを重要視し、常に見直しを心掛ける。
適切な支援の提供(続き)	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	個別支援計画書は確認しやすい場所へ設置している。毎日のミーティングにおいて、支援目標の確認を行っている。改善すべき箇所は、常日頃から見直しを行っている。	はい、と回答(100%)	現状もサービス計画に沿った適切な支援の提供ができているので継続していく。
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	利用者の特性を考慮して、プログラム内容を決めている。	はい、と回答(100%)。家庭ではできない体験などを行ってけている。	チーム対抗のプログラムを盛り込み、協調性を育むようにしていく。
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	休み明けは特に利用者の状況把握に努めるようにしている。	はい、と回答(100%)	個々の利用者の適正に応じ、プログラムを作成、実行していく。
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	毎日、朝のミーティングでプログラムの内容を見直している。	はい、と回答(100%)。家庭ではできない体験などを行ってけている。	プログラムの内容に変化を持たせるだけでなく、新たなプログラムの開発などに努めていく。
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	ミーティングで確認。		日々のミーティングに重要性をととても感じている。些細なことでも話し合う環境をこれからも継続していく。
	9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	支援翌日に、昨日感じたことをミーティングで話し合っている。		フィードバックを継続して行い、今後も情報の共有に努めていく。ミーティングの強化に努めたい。
	10 日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	スタッフ間の連絡帳で共有を行っている。		日々のミーティングを強化していく。
	11 定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	相談支援事業所と協力し、モニタリングの実施に努めている。計画の見直しは基本的に半年ごと、必要であれば都度行っている。		常日頃から、利用者の動向を注視するよう、これからもおこなっていく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
関係機関との連携	1 子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	参加可能な会議には積極的に参加している。		これまでに比べ、今年度は参画回数を増やすことができた。継続していく。
	2 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施			
	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備			
	4 児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有			
	5 放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、			今後も情報提供を求められた場合には、具体的な情報提供ができるように努めていく。
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	有償、無償にかかわらず、研修機会を増やしていくようにしている。		職員の質をたかめるべく、6年度も積極的に研修の機会を増やしていく。会社の重要施策とする。
	7 児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	現状は機会の提供できておらず。	わからない、と回答(100%)。	すぐに取り組める状況ではないが、職員と相談しながら検討していく。
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	併設のカフェを通して、地域との交流を行っている。		季節ごとに各イベントを実施している。施設内への住民招待は慎重に行わざるを得ないが、一般利用が可能な併設カフェを今後も活用していく。
保護者への説明・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	丁寧な説明を心掛けている。	はい、と回答(100%)。	今後も継続して丁寧な説明に努めていく。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	丁寧な説明を心掛けている。	はい、と回答(100%)。しっかり面談していただきました。	今後も継続して丁寧な説明に努めていく。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	面談において、時に助言を行っている。	はい、と回答(95%)。家庭(祖母のこと)の相談に乗っていただきました。	これまでどおり、親支援をおこなっていく。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	送迎時、保護者との会話を重視している。	はい、と回答(100%)。	毎日、連絡帳をお渡ししており、その日感じたことを保護者にお伝えしている。保護者からも、そのことについてコメントをいただいております、継続していく。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	親支援をコンセプトに掲げ、事業運営を行っている。	はい、と回答(95%)。家庭(祖母のこと)の相談に乗っていただきました。	保護者にもカフェを利用してもらっており、その時の会話から、適宜、助言をおこなっていく。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	個々の面談が主である。社会環境の制約から、保護者を集めての支援はここ数年実施できておらず。	はい、と回答(100%)。	6年度は、機会があれば、保護者会を実施したいと思う。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応		はい、と回答(100%)。迅速にいただいております。	苦情に限らず保護者や児童からの意見を尊重し、適切な対応に努めていく。
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮		いつもわかりやすく伝えていただいております。	今後もコミュニケーションツールの積極的な使用を継続していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	はい、と回答(100%)。とても分かりやすいです。毎日、写真やコメントなど細かい連絡帳があります。。	今後も連絡ノートでの活動内容発信を継続していくとともに、SNS等での発信も積極的に行っていく。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	事務室からの持ち出しを厳禁としている。	個人情報の書類は一部の職員でしか閲覧できないようにしている。
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	BCPマニュアルを基に、ミーティングで実施している。	マニュアルは、常に見直し、改善を図っていくとともに、積極的に情報発信をおこなっていく。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	避難訓練を毎年実施。一定量の備蓄水を確保済。	今後も、避難訓練の実施をおこなう。イベント性を持たせ、興味を持って参加できるように、工夫をおこなう。
	3	虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	専門家を招聘しての研修を行っている。	今後も虐待事例を出さない為に、職員への研修や指導を徹底していく。
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載		日常の支援の中で今後身体拘束を行う可能性が少しでも見られた場合には、事前に保護者へ説明できるように努めていく。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	利用開始前に、保護者への確認を行ったうえで対応している。	おやつ、昼食提供が対応すべき時であるが、今後も細心の注意を払っていく。
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	定期的で開催している事故防止会議で共有している。	昨今の事故報道を受け、より注意を払っている状況である。今後も最重要事項として事業所運営に取り組んでいく。